

大事にしたい子供心

後藤千春さん
主婦 平垣八幡町(29歳)



子供連れで遊びに行った時のことです。ごみを捨てに行ったはずの2歳半になる長男が困った顔つきで戻って来て、「どこへ捨てるの?」と聞きます。見ると近くにごみの山はあるけれど、ごみかごは見あたりません。私は、「はっ」としてしまいました。多分、大人なら何のためらいもなくそこへ捨てたでしょうが、

子供は、いつも「ごみはごみ箱へ」と言われているので、捨てずに戻ってきたのです。

日ごろ、子供に教えていることを忙しさや自分勝手な考えから破ってしまうことってありませんか? 私たちは、子供の中で育ちつつある、思いやりや公共心やおおらかな心を知らない間に摘みとっているのかもしれない。自分たちの生活を守るために、私たちも思いやりの心を育てていきたいものです。

遊びにも欲しいルール

鈴木三七子さん
農業 厚原中(49歳)

スーパーに行けば食品は何でもそろい、世は飽食時代と言われています。飢えに苦しむアフリカに比べると、日本は何て恵まれているのだろうと思うのですが、反面、農作物のありがたさを忘れている人の多いのは残念です。

道沿いの畑に作られたキャベツは、子供がいたずらするのでしょうか、



傘の先でみんなつつ突かれてしまいます。時にはキャベツの上に犬のふんをさせて平気な飼い主もいます。田んぼに、カエルやオタマジャクシを取りに来た子供たちは、早苗を踏みつぶしても何とも思いません。

昔は、畑や田んぼで遊ぶ時の暗黙のルールがあったと思います。そしてそれは、地域の人々や子供同士で自然に守られていました。農家が少なくなったので忘れられたのかもしれませんが、子供たちも遊びのルールやマナーを考えてほしいですね。

これまで、芸術より産業が優先してきた富士市にあつて、市民オーケストラ(その名を「富士フィルハーモニー管弦楽団」という)を結成したのが佐野穰一さん。5月19日に初練習が行われ、富士市の文化のプレリコードが奏でられました。

現在メンバーは、36人。市民は約半数で、教員や医師・学生など、とても頼もしい。富士高、国立音楽大学を経て昭和54年から4年間西ドイツ国立シューマン音楽院に留学した。環境(みどり)と古典芸術を大切にするというヨーロッパ感覚をしっかりと身につけており、今後の富士市に欠くことのできない人である。まだ、かろうじて独身。



「富士市の文化は、よい意味で発展途上。将来に大きな可能性を持つており、ラリーマンなど、17歳から60歳までの幅広い人達で構成されています。」



富士フィルハーモニー管弦楽団の主宰者

さ の じょういち
佐野穰一さん
平垣本町(28歳)